



第64号
令和元年8月

発行 NPO法人小野川
と佐原の町並みを
考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ
佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

都市計画法・建築基準法制定百周年記念式典 NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」が 「国土交通大臣表彰」を受ける

東京国際フォーラムのホールCにおいて、都市計画法・建築基準法制定百周年記念式典が去る六月十九日(水)に開催されました。

市づくりについてのパネルディスカッション」が行なわれました。

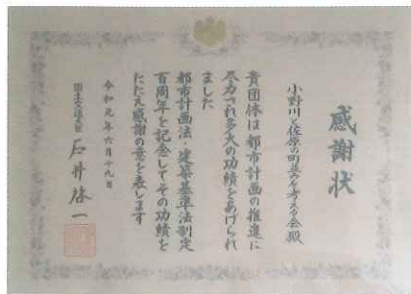
開会に続いて、「国土交通大臣表彰」があり、都市計画法の推進に功績のあった個人・百十六名と二十二団

体が表彰されました。さらに、建築行政法関係では、個人・百四十一名、十四

団体が感謝状を贈呈されました。

「国土交通大臣表彰」と「記念講演」と「東京の都

京の都し、魅力あるま



「国土交通大臣表彰」と「記念講演」と「東京の都し、魅力あるま



東京国際フォーラムの道淮像前にて

「十一の戦術」が提案されまし

伊藤滋氏の記念講演

ちづくりの推進に顕著な功績があった団体」として表彰されたものです。
盛大な式典に際して、私たちのNPO法人が、これまで永年にわたって活動してきたことが全国的に認められたもので、大変誇らしく思いました。

東大名誉教授の伊藤滋氏による「万華鏡都市

東京」という記

念講演は、高齢

社会をむかえた

東京のこれから

の生活スタイル

について話され

大同生命社長ご夫妻が交流館を訪問

2018年(平成30)10月14日(日)秋の佐原の大祭に大同生命社長工藤稔さまと奥様が佐原町並み交流館を訪れて、佐藤理事長らの案内で同社のコマーシャル撮影現場などを見学しました。



「会社が元気な街」シリーズの波瑠さんが小野川沿いを自転車で駆けて共栄橋の高欄に寄る映像は社のイメージ向上に「びっくりぼん」効果を発揮したということです。
(ポスターの右が稔さま、左が奥様)

「考える会」の主な事業(抜粋)

毎月第一日曜日は骨董市
毎月一回案内班会議



3月9日(土)の建物公開。「さわらひな舟」と旧宅前の盛況の様子。

四月二四日 理事会

第四十一回全国伝統的建造物群保存地区協議会 総会と研修会に参加して

平澤 節 夫

さる五月二十二日〜二十四日
に秋田県横手市で行なわれた伝
建協総会に「考える会」から、
佐藤理事長、玉造、平澤の三人
が参加しました。

まだ「雪捨て場」には黒々と
雪の山が残ってはいましたが、
四三道府県、九八市町村、百十
八地区から自治体職員ら約二五
〇名余が集まりました。

二二日は開会式後、丹波篠山
市の事例発表に続いて後藤治氏
(工学院大学理事長)の「これま
での伝建、これからの伝建」と
題する記念講演がありました。

いま住む町の価値を知る

内容は、①空き家と空き店舗
の問題。空き家にせず、戻って来
たいという魅力をつくる努力を。
②高齢化と少子化の問題。生ま
れ育った地域の歴史と価値を家



佐原からの参加者は半纏を着用して交流。

庭や学校で教える。③観光地化
して発生する問題。金沢市など
はすでに許容範囲をオーバーし
て町が壊れていくという懸念が出

てきた。「食べ歩き」「コイン・
パーキング」の規制などが必要だ。
外観だけでなく、持続可能な町
の保存活用には住民の幸せとい
う観点から法的な改正が必要だ。
一昨年発足した「伝建にぎわい
推進議員連盟(百名超の国会議
員)」との協力体制(文化庁予算

の拡充等)を期待したい。
二三日は、横手市増田伝
建地区の視察、意見交換会、
文化庁の講演とまんが美術
館見学がありました。
増田伝建地区は、羽州街
道の流通拠点として明治時

日本遺産研修

2月12日(火)と19日(火)の2日間、千葉
県が主体となって行なわれた日本遺産に認定
された北総四都市の観光ボランティアを対象
にした養成実習に参加しました。

12日は、香取神宮に25名が集合して、佐原
と銚子の案内実習でした。神宮境内、小野川
周辺と舟下りと忠敬記念館をそれぞれ佐原町
並み案内班のメンバーが分担して行ないまし
た。午後は、バスで銚子へ移動して、外川漁港
に向かい、銚子のガイドから、外川港が人間の
知恵によって自然の力を借りて完成したこと
や江戸時代の「東国三社詣」の延長として磯
巡りが人気だったこと等を説明されました。

19日は、JR成田駅に集合し、成田市と佐
倉市の実習で、まず佐倉宗吾霊堂に向いまし
た。住職より宗吾や施設の説明を聞いた後、
成田へ戻り、新勝寺で護摩体験や公園内の説
明を受けました。佐倉市で昼食をとり、武家
屋敷を見学し、禄高で屋敷に差があること、
佐倉藩は譜代大名だったため転封が多かった
ので家臣たちは急な移動に備えて、質素で効
率的に生活していたこと等の話を伺いました。

竹林の古径を歩いた後、バスで旧堀田邸に
向いました。最後の佐倉藩主堀田正倫(まさとも)
邸は国の重要文化財に指定されています。部
屋の使用目的によって壁土の色が違います。
旧大名家の気風を今に残しており、屈指の庭
師だった伊藤彦右衛門の手による和風庭園と
合わさって貴重な日本遺産となっています。
バスで成田駅に戻って解散となりました。
(植島 裕)

町並み交流館の行事

- 二月九日(土)〜三月二四日(日)
さわら雛めぐり
- 三月九日(土) さわら雛舟
- 四月六日(土)〜五月十四日(火)
佐原五月人形めぐり展示
- 六月四日(火)〜九日(日) 日本盆栽
協会水郷佐原支部盆栽展
- 六月八日(日) 観光キャンペーン
(成田イオンモール)、牧野大神楽
ほか
- 六月十七日(月)〜七月十七日(水)
佐原の光景写真展(四季彩他)
- 七月一日(月)〜八月三十一日(土)
タイ芸術家アニメトリーの絵画展
- 八月五日(月)〜二日(水) 北澤聖
江「佐原・大祭・母と子と」絵画展
- 八月二四日(土) 香取市国際交流協
会「日本文化体験・身近にお茶を
楽しむ会」

(前頁より)

- 五月 四日 東海大学学生研修
十七日 「考える会」総会
- 二五日 あやめ祭シャトルバス
案内開始
- 二九日 小野川清掃 新上川岸
区合同、さわらぼ
- 六月十一日 景観審議会
- 十四日 筑波大学学生研修
- 二二日 さわらぼ・理事会
- 二八日 国交省来館
- 七月 三日 清水建設・工事(午前)
- 十一日 佐倉市民力レッシュ来館
- 十二日〜十四日 本宿祭礼・交
流館来館者数三日間一六、八
八三人
- 二九日 佐倉市新町観光協会来館



5月29日(水)、新上川岸
区と合同で小野川清掃。

研修の旅
市川行徳常夜灯と
浦安郷土博物館へ

平成三十年度の「保存会」「考える会」の研修旅行が三一年三月十九日(火)に行なわれました。

八時半に佐原駅北口をバスで出発し、市川市の徳願寺を目指しました。慶長十五年に徳川家康の帰依により創建したといわれている寺院で、市川のボランティアガイドさんの案内により立派な山門、鐘楼と本堂を見学しました。

その後、狭い住宅街の中を蛇行する権現道を巡って伝承館前に到着します。ここで二班に分かれて、伝承館と江戸川堤に立

っている「常夜灯」を見学しました。

伝承館は「旧浅子神輿の店舗



市川市の徳願寺の見学

兼主屋」で、「浅子周慶」の神輿製作技術の紹介と地区の例大祭の様子や歴史パネルが展示されています。行徳地区は、江戸時代より「行徳神輿」といわれる神輿づくりが盛んで、現在でも全国から神輿製作の注文を受けている中台製作所を見学しました。



江戸川岸に立つ常夜灯

昼食は、オリエンタルホテルのグランサンクで洋食の食べ放題を満喫しました。

二時過ぎからは「青べか物語」で知られた浦安浜にあった家並みを再現する浦安郷土博物館を見学して、午後五時には佐原駅北口に帰着できました。



中台製造所で神輿の工程見学

利根川の「東遷」が実現して以来、佐原から利根川を遡った高瀬舟は関宿をまわり南下、行徳に到った後、小名木川を経て江戸府内の運河へと漕ぎ入れて行きました。

製塩でも栄えた行徳は、江戸への物流をさばく有力な河岸として房総への玄関口として栄えた所です。築堤の端に柵で囲まれて残る堂々とした「常夜灯」は当時の河岸の盛況を今に伝えています。

佐原と強く結び着いていた行徳でほとんどの旅人は舟を降り陸路をたどり、木下(きおろし)に到り宿をとるか休息後、佐原までの茶舟に乗り替えました。そんな悠久の歴史に浸れた一日研修でした。

ただのり
伊能忠誨と祖父忠敬 (その5)

伊能忠誨が祭礼に参加する

忠敬の嫡孫忠誨は江戸から佐原に戻り、伊能三郎右衛門家当主としてつとめを果たす道を選んだ。つとめの一つが本宿の牛頭天王社(現在の八坂神社)の祭礼である。旧暦6月10日に神輿が神幸して小野川で禊をする御浜降りの神事を行なった後、神輿を御飯屋に運び、12日に悪疫退散を祈願する祇園神事を行い各町内を神幸し天王社に戻った。

御浜降りと祇園祭の神事には伊能三郎右衛門家と永沢治郎右衛門家が深く関わっており、1年交替で入れ違いに神事関係者に振舞を行っていた。文政8年(1825)6月10日、伊能家では天王社を管理する清浄院、名主など村役人、神輿を担ぐ者16人など、合計26膳を座敷に出して振舞った。料理は伝統に従って、ドジョウと子イモの汁、ヒジキとトウロク豆の煮物、白瓜とナマリ節、茄子のアンカケ、インゲンのヒタシ、酒無しで食事をして帰った。夕方、神輿が出御されて、忠誨は袴姿でお供を従え大橋(忠敬橋)のたもとの北側の柏屋に行き神酒を頂戴した。御浜降り神事が終わり神輿を御飯屋まで送って帰宅した。

12日の朝10時前に忠誨は、御飯屋の山川伝兵衛へ行き神酒を頂戴した。神輿神幸が始まり、永沢治郎右衛門や村役人などと神輿に供奉して、上寺宿より浜宿、左へ行き川岸へ下り船戸まで引き返して橋本、寺宿、田宿へと進んだ。祇園神事の当番の永沢治郎右衛門宅で振舞の後、橋本、前原、仁井宿まで、それから船戸へ下り、直ちに浜宿の天王社内へ神輿を納めた。

翌13日の日記には町々の「ヤダイ通ル。店ニテ見物いたす」と神事だけでなく附祭りについても記録している。同年8月には、江戸からの客を連れて奈良屋で新宿諏訪明神の祭礼を見物して「踊り屋台、小供踊りこれ有り、大に宣し(よろし)」と記している。また文政6年6月13日の日記には「夜、テラ宿、仲丁、川岸、舟戸等のニワカ通ル、皆々店ニテ所作事有り」と各町内が様々な芸能を披露している事がわかる。(玉造 功)



浦安郷土博物館の銭湯の前で

万葉集ブームの中で

「万葉集千歌」の著者楯取魚彦の再評価を

万葉集の研究家・魚彦

今年五月一日から年号が平成から令和となり、「万葉集」の詞書の二文字に典拠があることで「万葉集」ブームが起った。

万葉集と言えば、忘れてならないのが佐原の産んだ国学者・楯取(伊能)魚彦(なひこ)である。賀茂真淵の門弟四天王といわれた魚彦の著書「万葉集千歌」の複写本が出版されて魚彦再評価の機運が高まっている。

「賀茂真淵門流の万葉集研究」の著者片山武氏が賀茂真淵記念館と本居宣長記念館所蔵の「万葉集千歌」の写本を複写して比較を試みたものである。

かとりなひこ

真淵は万葉集を研究し、万葉風の和歌を復興した人で、門人の魚彦もまた、万葉仮名をひらがなに書き直して他書と比較したり、四千五百首以上の歌中よりテーマ毎に良歌を選んで万人に広めようと努力した。その一冊が万葉秀歌集「万葉集千歌」である。他に「万葉名所歌集」や「万葉集新釈」の著作がある。



伊能忠敬記念館の入り口横に立つ楯取魚彦碑

「令和」の由来

令和の二語は「万葉集・巻五の梅花の歌三十二首」の序文中にある。天平二年(七三〇)正月十三日に大友旅人(家持の父)の邸宅で宴会を開いた折、「初春の令月(れいげつ、よい月)にして気淑く(きよく)風和ぎ(かぜやわらぎ)」とある部分の二つの漢字を組み合わせた。

忠敬が尊敬し師事した人

忠敬が十七歳で佐原の伊能三郎右衛門家に入婿した頃、対岸の伊能茂左衛門家から出た二十二歳年上の魚彦はすでに江戸で真淵門下として名声があった。忠敬が二十二歳の頃、幕府が佐原河岸から運上金を搾り取るうとした「佐原邑河岸一件」のごたごたの際、江戸にいた魚彦に相談に乗ってもらっている。

十二代目忠誨死後の伊能三郎右衛門家

ちや質素な書院にまじわる話

昭和五年の伊能忠敬旧宅の国史跡指定の説明には「……母屋(現在の書院)ハ寛政五年(一七九三)忠敬ノ設計ニ係リ……」とある。

香取市の調査報告書によると、近世期の「伊能家図面」(一七八〇年代の天明年間と推定)と「伊能家実測図」(伊能忠誨が文政七年(一八二四)に作成「忠誨日記」に屋敷を実測したことが記載されている)の二枚の屋敷図には、国史跡指定の母屋(現在の書院)に相当する建物は描かれていないので、寛政五年の建物であることを裏付けることは出来ない。

忠敬の隠居書院を建てることは忠敬の希望する所ではあったが、忠敬が七三歳の時に娘の妙薫へ宛てた書状(文化十四年・一一一七)の中では「佐原の本家の状況や忠敬自身の年齢から書院を建てるどころではない」と記されている。

孫の忠誨の死後十年ほどした天保八年(一八三七)三月二十日付の親戚筋の家の日記によると、伊能三郎右衛門家の屋敷の大半はすでになくなっているという。百坪ほどの母屋も取り壊されてしまったと思われる。忠敬の死

交流館来館者の声

鹿島アントラーズの応援の際いつも交流館に立ち寄って下さる方、日本一周途中のライダーやコロンビアからのお客様の筆跡もあります。



北海道の札幌からハレーク、カッパドソクに乗り、箱館、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉と流れて参りました。被災地を巡り、多くの人と出会い、沢山の縁を感じました。インターネットにまみれたこの新時代「令和」も、直の人々との繋がりが大七だと思えます。林の途中に佐原市、伊能氏と出会えた事に深く感謝申し上げます。 一歩 遊業

2019 5/27
JAPON ME
ENCANTA

後二十年後の出来事である。現在の屋敷跡(現在の旧宅跡)は忠敬時代の五分の一ほど。忠敬や忠誨の時代には現「書院」は存在していないと思われる。景文(かげふみ)が伊能三郎右衛門家十三代目当主となった安政四年(一八五七)前後に現在の書院が建てられたのでは。そして、やや質素と思えるこの書院は景文の頃の財政事情によるのではないか。(平澤節夫)

(参考資料)伊能洋氏(忠敬から数えて七代目)が「祖母・孝(こう)の思い出」を書いているので、一部を引用略述する。「……祖母伊能孝は、忠敬より四代目となる三郎右衛門景文とひさの長女として慶応二年(一八六六)に佐原の忠敬旧宅で生まれた。女ばかりの五人姉妹で……嗣子がなかったため、同族の伊能七左衛門家から端美(たみ)を婿養子に迎えた。

三郎右衛門家の後見として忠敬の遺品の整理・保存に力を尽くしてくれた同族の伊能茂左衛門・節軒は、五姉妹の名付け親だった。……孝は、私の父康之助、長女、次男と三人の子を産んだ。」